

レベル	レベルの定義	修了時の到達目標
<p>I 新卒での新入職 1年間</p>	<p>1. 指導や教育のもとで、基本的な看護手順に従った看護が、安全に実践できる 2. 当院職員および看護職としての自覚を持って責任ある行動がとれる 3. ケアの受け手・他職種を含む職員と良好な人間関係を築くための自己の課題に気づくことができる</p>	<p>① 看護実践において、判断や援助内容に関して、必要に応じ先輩や他職種の助言を得て看護を実践する ・助言を受けながら、患者および家族から意図的に情報を収集し、その情報からニーズを把握し、看護上の問題に気づくことができる ・助言を受けながら、看護手順に沿って基礎的看護技術が安全かつ確実に実践できる ② 病院組織・看護局・病棟・チームといった組織の概要を理解し、メンバーの一員として行動できる ③ ケアの受け手を含め、医療を取り巻く状況の中で、倫理的問題に気づくことができる ④ 自己の言動や他者との関係作り、実践している看護を振り返って内省し、(自分の)課題に気づくことができる</p>
<p>II 基本的に1年間</p>	<p>1. 標準的・平均的な看護計画が立案でき、その計画に基づく看護が安全に一人で実践できる 2. 看護実践で得た知識や技術を経験として積み重ね、適切な判断や効果的な技術の提供につなげることができる 3. 組織、特にチームメンバーとしての役割が自立して実践できる 4. ケアの受け手を取り巻く状況や看護において、自ら倫理的問題に気づくことができる</p>	<p>① 看護実践において、標準的な看護計画が立案でき、計画に基づいた看護を、状況判断や援助内容を含め、自立して実践する ・自らケアの受け手の訴えや観察をもとに、多方面から必要な情報収集ができる ・情報収集をもとに、患者の状態を把握して、それに応じた標準的な看護計画を立案し看護が実践できる ② 受け持ち看護師として、ケアの受け手に何が必要かを判断し、具体的な看護に結びつけることができる ③ 受け持ち看護師として自覚し、その役割を責任を持って実践できる ④ ケアの受け手を含め医療を取り巻く状況の中で、倫理的問題に気づき、どう対処すべきかを考えることができる ⑤ コミュニケーションスキルを意図的に用いて周囲を取り巻く人々と関わることができる ⑥ 実践した看護や自己の言動を振り返って内省し、看護観を明確にすることができる</p>
<p>III</p>	<p>1. 患者の個別性をふまえた看護を、一連の看護過程を通して、安全かつ確実に実践できる 2. 日常的に実践している看護を意識的に振り返り、新たな気づきを得ることができる 3. 組織の中でのリーダーシップを理解した上で、部署や看護実践においてリーダーシップが発揮できる 4. 自ら倫理的問題に気づき、倫理原則と照らし合わせ、対処行動を起こすことができる 5. ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供でき、意向の違いを多職種に代弁できる。 6. 自らコミュニケーションスキルを応用し、ケアの受け手や周囲の人々と積極的に関係作りができる</p>	<p>① 臨床での出来事を経験的にとらえるだけでなく、正しい知識と技術を実践で積み重ね、個々の患者および家族の病状や状況に応じた実践できる ② 看護技術を、科学的かつ論理的に説明し、また実践での行動で示し、新人看護師のロールモデルとなることができる ③ 組織の中でリーダーとは何か、リーダーシップとは何か、チームで実践する日々の看護におけるリーダーの役割とは何かを理解し、率先してリーダーシップを発揮できる ④ プリセプターの役割を理解し、新人育成に主体的に関わることができる ⑤ 組織や部署、看護実践で発生している倫理的問題に自ら気づき、原則に基づいた行動がとれる ⑥ コミュニケーションスキルを高め、それを応用して、ケアの受け手や周囲を取り巻く人々とより良い関係を築くことができる ⑦ 看護実践で得た経験やノウハウ、イメージなどを客観的かつ科学的にとらえ、それを具体的な言葉や文章、行動で表現することができる ⑧ ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる</p>
<p>IV</p>	<p>1. 物事を多角的な視点で、かつ客観的にとらえ、分析して、論理的に説明することができる 2. ケアの受け手を取り巻く状況を統合して、予測的かつ論理的に整理・判断して、多職種を巻き込んだ個別の看護が実践できる 3. 部署で求められる専門的な能力や指導的役割を自覚し、それを遂行できる 4. 部署内で発生している倫理的問題の要因を分析し、スタッフを巻き込みながら、主体的に問題解決行動が取れる 5. ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し適切な看護ケアが実践できる 6. 自己のコミュニケーションスタイルや看護を振り返って内省し、更に幅広くより良い関係構築のための課題に取り組むことができる</p>	<p>① ケアの受け手のニーズを多角的にとらえ、優先順位をふまえて必要な看護を選択・応用できる ② ケアの受け手や周囲の人々の思いを受容・共有し、選択を尊重しながら、意思決定のプロセスに積極的に関わることができる ③ 多職種連携を視野に入れて多職種間の調整や連携を進めることができる ④ 部署およびチームの目標や活動に対し、それを達成するためにリーダーとしてどのような役割を果たすべきか言動で示すことができる ⑤ 新人・後輩・看護学生の育成に関わり、対象者の特徴や状況に応じた支援を、適時・適切に実践できる ⑥ ケアの受け手、周囲を取り巻く人々に起こる倫理的問題に対し、問題解決のために主体的に行動できる ⑦ 日常的に実践している看護を、研究的視点でとらえ直し、論理的・科学的な看護実践へつなげることができる ⑧ ケアの受け手や周囲の人々、多職種と良好な関係を維持し発展させることができる</p>
<p>V</p>	<p>1. より複雑な状況の関連性を把握し、様々な知識や技術 ・社会資源を統合・応用して、個々の患者に最適な看護が選択・実践できる 2. 論理的かつ卓越した実践的知識や新たな知見を統合し、所属を越えてリーダーシップが発揮できる 3. 地域や在宅での療養を見据え、多職種および地域で活動する様々な人材を巻き込んで、看護実践のための調整や連携が行える 4. 複雑な状況下における倫理的問題を多職種と協働し問題解決行動が取れる 5. 適切な資源を積極的に活用し、法的および文化的配慮など、多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる 6. 看護実践や問題解決のために、コミュニケーションスキルを応用し、構築した人間関係を活用することができる</p>	<p>① 最新の知見を看護実践に積極的に取り入れ、ケアの受け手のニーズに応える看護が提供できる ② 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる ③ 多職種との調整・連携を中心となっており、多職種チームがそれぞれの役割を果たし、チームとして機能するよう調整役となることができる ④ 部署内にとどまらず、病院内で看護職が果たす役割を理解し、リーダーとして責任ある言動がとれる ⑤ コミュニケーションスキルを応用し院内、院外、職種を問わず、自らの考えを多角的・論理的に整理し伝達することができる ⑥ 看護実践のロールモデルとして、指導的役割を果たすことができる ⑦ 倫理的問題を多職種と共有し、協働して、問題解決のための具体的な方略が実践できる ⑧ 日常的に実践している看護を、研究的視点でとらえ直し、論理的・科学的な看護実践へつなげることができる</p>